

第4回 『わかるように伝えていきますか』

香川大学 坂井 聡

・わかるように伝えるための構造化

前回、わかるように伝えるための構造化の話をししました。今回は少し細かく見ていきたいと思います。まず、物理的な構造化です。物理的な構造化とは、場所と活動を対応させることによって、そこで何をするのかをわかりやすく伝えるというものです。

重度の障がいのある人の場合、言葉でいろいろ伝えられても理解できないことが多いと考えられます。特に発達障がいのある重度の人の場合は尚更です。そこに行ってもわけのわからない言葉で伝えられるだけで、何をしようのかさっぱりわからない。このような状況なのです。

同じような状況に置かれたとしたら誰でも混乱するに違いありません。

そこで、場所と活動をできるだけ一対一にすることによって、一つの場所を多目的に使わないようにするのです。こうすることによって、そこに行けば何をすればよいかをわかりやすく伝えるわけです。

勉強のスペース、テレビを見るスペース、着替えのスペースといったように、それぞれの活動に対応したスペースを設けるようにするわけです。

よく考えてみるとわかることですが、私たちも着替えのスペースや娯楽のスペース、趣味の部屋など分けているのではないのでしょうか。

私たちがわけているのは分かりやすくするという理由ではないかもしれませんが、構造化されていることには違いありません。人が家に訪ねてきたとき、趣味の部屋を見れば、「ここが趣味に部屋ですね」と誰でもわかるはずです。同じように考えてみればよいのではないかと思います。

さて、このような話をすると、その意図はよく分かるのですが、活動に対応するだけのスペースを確保することができないので困っていますという話をよく聞きます。そこは考え用だと思のです。

例えば造形活動を机上でしなければならぬとしましょう。その机は給食のときにも使っているものです。このような場合は、机の上に敷くテーブルクロスを変えてみるということに対応することはできないでしょうか。造形活動のときには白のテーブルクロス、給食のときには花柄のテーブルクロス。ちょっとした工夫でわかるように伝えることができるのではないかと思いますのでどうでしょう。

場所と活動を対応させることでわかりやすく伝えることができればよいのです。

もしそれがスペース的に不可能なのであれば、どのようにすればそのスペースを共有しても混乱しなくなるかということを考えてみればよいと思のです。

最後に、物理的な構造化をしている教室を見に行くと、段ボールでついたり等を作っている場合が非常に多いように思われます。わかりやすく伝えるために使っているので、その理由はよく分かるのですが、できるだけきれいなものを用いてもらいたいと思のです。見て美しい物理的な構造化も考えなくてはならないのではないかと思います。

一度自閉症のある人たちに聞いてみたいと思のです。

「あなたならどのように構造化された環境で学びたいですか？」と。